4　金銭・金融教育と SDGs

SDGs の観点から、「目標１貧困をなくそう」や「目標２飢餓をゼロに」「目標３すべての人に健康と福祉を」「目標５ジェンダー平等を実現しよう」など SDGs の目標は、キャリア教育につながっていると考えられる。さらに、「目標８働きがいも経済成長も」は、金融教育につながる目標である。それゆえ、「目標４質の高い教育をみんなに」として、すべての人がキャリア教育を学び、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力等の基礎的・汎用的能力や金融リテラシーを身に付けることが、持続可能な社会の開発につながると考える。そして、その ESD を進める本校においても、その一環としてしっかり児童の学びに位置づけていくことが重要である。

5　八名川小学校における指導の重点項目

・自ら「問い」をもち、知恵を働かせて自力解決をしていくことを基本とした問題解決的な学習による授業を全教科領域で児童が進められるようにし、課題解決に必要な資質・能力を育てる。
・勤労の意義や社会福祉の精神、相互に支え合う社会づくりのための権利と義務を学ぶ学習を各教科・領域で意図的に設定し、社会の一員として相応しい資質を身に付けさせる。特に、特別活動では勤労奉仕・ボランティア活動を年間計画に位置付け、実施する。
・金融や経済の働き・仕組み、生活設計・家計管理に関する知恵、消費生活・金銭トラブル防止、働く意義や意欲等、学年の発達段階に応じて理解させ、自分が社会に支えられていること、働きかける関係にある（つながっている）ことを自覚し、持続可能な社会の形成を意識して考えたり、行動したりする態度を養う。
・社会科・生活科において、地域社会におけるお金や金融の様々な働きを理解し、個人として、社会人としての自分の生き方の価値観を磨くことができるよう、金銭・金融教育に関する授業を全学年で年間１単元以上行う。
・道徳（C主として集団や社会との関わりに関すること）を初め、各教科・領域で、キャリア教育や金銭・金融教育に関する授業を行う。
・多くの社会で活躍する人とのふれあいの機会を設定し、活躍した人からの学びを通して、夢の実現と持続可能な社会の実現に向けて努力をしようとする向上心を養う。
・低学年から係活動を充実させるとともに、給食や掃除などの当番活動に責任をもって最後まで取り組めるようにすることで、自分の役割に気付かせ、どんなことでもやり抜こうとする態度を育てる。

○成果

【教材の工夫】
・地域教材・外部人材を活用した学習を通して、人に着目して考え、意欲的に学習することができた。金銭金融にかかわる疑問を児童がもてるような興味・関心を高めることができた。

【学習過程の工夫】
・「つかむ」段階での共有体験をたせることによって、児童それぞれから「問い」が生まれ、その「問い」も学級全体で共有することができた。
・「まとめる」段階で ICT 機器を活用することによって、個別最適化された授業を展開することができ、社会的事象について文章でまとめる力がついた。

【学習活動の工夫】
・ＩＣＴ機器の活用（chromebook の活用等）によって、他者の考えを一斉表示することで視覚的に分かりやすく比較でき、それをもとに話し合いをするなど、協働的な学習の実現につながった。また、他者の考えや表現を自己の学習に生かしていくことで学びの質が高まった。

【令和３年度学力調査より】
・算数科・国語科ともに、東京都・全国平均を大きく上回る結果となった。問題解決的な学習を社会科や生活科に限らず、全教科に取り入れたことて、知識・技能、思考・判断・表現等の資質・能力がバランスよく身に付いていることが分かった。

△課題

【評価としての振り返り活動の充実に向けて】
・児童の気付きや理解をワークシート等に書く時間を設定したり、chromebook を使って振り返りができるようにしたりして、学びを共有するべきであった。今後、振り返りの仕方についてさらに検討していく必要がある。

【人権的な配慮について】
・「オクリンク」や「ムーブノート」の活動では、様々な活動の共有化がしやすくなる一方で、一人一人の考えを生かすための配慮が必要となるため、人権教育をすすめていきたい。

【 研究に携わった教職員 】　　◎研究推進委員長　　○研究推進委員

【校長】　澤田　純二
【副校長】　大西　栄蔵
【１年】　○井ノ口美保　　上田　晃也
【２年】　　久保　傍子　　○本嶋　城
【３年】　◎鈴木　太地　　遠山　貴子
【４年】　○横田　佑　　中田　香南
【５年】　　鈴木　優一　　○松下　龍馬
【６年】　○菊地　弘明　　寺井　麻生
【少人数】　小松ありさ　　【音楽】　佐藤　美紀　　【図画工作】　齋藤みなみ
【養護】　　梶原　幸子　　【事務】　金沢　浩　　【栄養士】　河野　真稀
【休業中】　長谷川　香　　池原真由子　　泉　舞
令和２年度　望月　潔　　小新　祐介　　市村　瑞穂

【研究会講師】
國學院大學教授　　安野　功先生
麻布台学校教育研究所　梶井　貢先生

令和２、３年度　金融教育研究校
令和２、３、４年度　江東区研究奨励校

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization ・ UNESCO Associated Schools

【研究主題】
新しい時代を切り拓く資質・能力のある子の育成
～問題解決的な学習を通して～

新しい時代を切り拓く資質・能力
社会構造や生活様式が変化している状況下において、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲をもって、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いをもってその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力のことである。

江東区立八名川小学校

研究主題設定について

１　児童の実態より

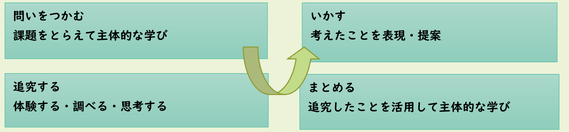
授業における評価や各学力調査の結果を分析し、本校児童の実態として以下のように考える。

本校児童は、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解くようなカは比較的高いが、その一方で、自らが問いを立てて主体的に学習したり、他者と協働的に学習したりすることに課題がある。また、児童質問紙では、地域にすすんで関わろうとする児童が少ないという現状が明らかになった。さらに、「将来の夢や目標をもっている児童」は 93.4%で、高い数値であるが、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答したのは 59.0%（東京都 71.4%）であった。金銭トラブルも起こっているが、これは児童の社会規範や社会制度の不十分な理解と金銭感覚の未発達が原因と考える。

本校では、社会の仕組みを理解し、地域社会と関わり、その一員としての自覚をもって行動するような持続可能な地域社会をつくる担い手となる児童を育てていきたいと考える。そのためには、新学習指導要領にあるように、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出すことが重要である。それゆえ、問題解決的な学習を通して、児童一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことが必要だと考える。

２　問題解決的な学習の進め方について

問題解決的な学習の目指すべきゴールは、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の三つの資質・能力が一体的に育むための主体的・対話的で深い学びであるとされている(國學院大學・安野功氏)。問題解決学習を通して、三つの資質能力が一体的に育まれるような主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、研究を進めていく。



本校では基本的な学習過程を「問いをつかむ」「追究する」「まとめる」「いかす」とする。その学習過程で、課題をとらえて体験したり、調べたり、考えたり、練習したりして追究する主体的な学びとなるようにした。そして、追究したことを活用して対話的に学び、学習内容をまとめ、「いかす」段階では、そこで考えたことを表現し伝えるだけではなく、そこに提案や活用、行動化を入れていくことで、より実践的な力を身に付けさせることをねらいとしている。

３　金銭金融教育の目標

問題解決的な学習を通して、新しい時代を切り拓く資質・能力のある子の育成するため、キャリア教育、金銭・金融教育に取り組むことで、特に「社会的に自立する力」「職業的に自立する力」を身に付けるとともに、その重要性を認識できるようにし、価値観を育てる。

低学年：自己のよさに気付き、自分の役割を考え、できることを増やす。働く人々のよさと人の役に立つ喜びを知り、協力して活動しようとする。
中学年：生活を支える人々の工夫や願いを考え、尊敬と感謝の気持ちをもつ。働くことの大切さを知り、自分の役割に責任をもち、最後までやり遂げる。
高学年：経済や国を支える人々の工夫や努力を理解する。困難なことや新しいことに挑戦し、集団の中で役に立つ。

研究構想図

めざす子供像

○自ら学び考え、行動する子
○思いやりのある子
○体をきたえ、命を大切にする子
○地域に誇りをもち、生き抜く力のある子

児童の実態

強み	弱み
素直で明るく、友達や仲間に優しい児童が多い・学力が高い・発表力が育っている・読書好き・対話的な学びができる・規範意識が高い・リーダーシップ・フォロアーシップ	主体的な学び、深い学びができない・読解力・論理的思考力が低い・見方・考え方を働かせることが苦手・金銭感覚が低く、勤労感謝意識が低い・地域への参加が少なくなっている・生活スキル不足・体力不足

【研究主題】

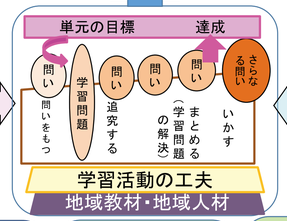
新しい時代を切り拓く資質・能力のある子の育成
～問題解決的な学習を通して～

【研究仮説】

地域人材や地域教材を活用し、地域と主体的にかかわる体験的・探求的な学びを取り入れた「問い」を重視した問題解決的な学習や、社会的・職業的に自立した人間を目指し、社会にかかわり知恵を働かせる学習活動を工夫して実施すれば、三つの資質能力が一体的に育まれるような学びが実現され、新しい時代を切り拓く力を育てることができる。

コミュニティ・スクール(CS)として

・保護者・地域との信頼関係を深め、学校運営改善と健全育成に取り組む。
・学校運営協議会での共有・協議
・地域学校協働本部での連携・協働
・学習支援活動の活用
・環境支援活動の活用



ユネスコスクールとしてESDで育てたい力

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

研究の内容

【提案１】教材 地域教材・地域人材を活用した学習

・チームやながわ(CS)と連携、コミュニティティーチャーやサポーターの活用
・学びの質を高める地域人材活用と授業の工夫
・キャリア教育及び金銭金融教育の実施

【提案２】学習過程 主体的な問題解決のための単元デザイン

・「問い」をもち、地域に主体的にかかわりながら学ぶ
・つかむ段階での共有体験
・「問い」の解決を繰り返し、学びを深める学習過程
・児童の「問い」を活かすための単元デザインの作成

【提案３】学習活動 見方・考え方を働かせながら学ぶ学習活動

・人や社会にかかわる体験的な学習活動
・考えの見える化、共有化を図るICT活用
・プログラミングや討論など論理的思考を高める学習活動
・交流や発表の場の設定

低学年分科会

2学年　生活科　単元名「図書館を探検しよう」

①　出合う

・家庭と連携し、図書館探検①を行った。
・気付いたことや経験を話し合い、問いをもたせた。

○つかむ段階での共有体験
・地域の深川図書館で借りた本や写真を見ることで、関心をもたせる。
・共有体験として保護者と一緒に図書館に行き、同じ教材から問いをもたせる。

②かかわる

図書館についてもっとしりたい！しらべたい！

・グーグルアースの活用による探検へのシミュレーションを行った後、全員で、図書館探検②を行った。
・図書館の方にインタビューをした。

○地域教材を活用し、探究的な要素を入れた問題解決的な学習過程
・繰り返し見学ができる地域の図書館を探検し、働く人や様子を観察したり、図書館の方の話を聞いたりして、自分たちの生活に関わる人や場所について気付き、公共施設のよさや働きについて、考えを深める。

③まとめる

だれにどうやってつたえようかな。

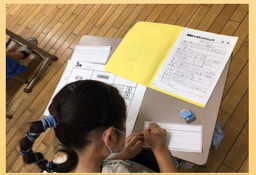
・気付いたことや分かったことを整理して問いを解決し、伝えるという新たな問いをもった。
・館内図を利用して発表を行った。

○交流や発表の場の設定
・学習した内容を１年生に伝える場を設定することで交流の場をもつと共に、学習内容をまとめ、表現し、振り返を行った。
・さらなる問いを解決するため、深川図書館司書の話を聞いて発表につなげた。

④いかす

わたしたちにできることはなにかな？

・図書館などみんなが利用する施設について、自分にできることを考えた。



○金銭・金融教育
・「図書館の本がなぜ無料で借りられるのか」などの問いから、みんなで使うものを大切にすることを考えた。

中学年分科会

4学年　社会科　単元名「自然災害から人々を守る活動」

①問いをもつ

・江東区役所に設置されている水準表と担任の身長を比べ、水害の恐ろしさを感じさせた。
・江東区、東京都の資料、動画などを作成・活用した。

水害からわたしたちのくらしを守るためにだれがどのような取組をしているのだろうか

○地域教材の活用
・問いをもつための共有体験として、過去の自然災害を知るための地域の資料や作成した動画やプレゼンテーションを活用して、児童の問いから、学習問題をつくった。

②追究する

・国や東京都、江東区の水害への対処と備え（公助・共助）を追究した。
・荒川河川事務所・消防団などのゲストティーチャーを活用した。

○地域人材の活用
・ゲストティーチャーや地域の方々に、水害に対する取り組みについてインタビューし、より身近な公助の必要性について考えた。

④いかす

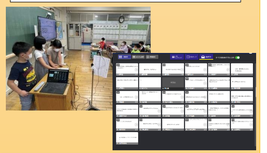
・さらに調べたい問いを追究し、マイタイムラインを作成した。
・体験的な学習によって理解を深めた。

○カリキュラムデザイン
・総合的な学習の時間「防災大作戦」には社会科の発展の学習として水害以外の災害についても備えを対処について追究し、考えを深めた。

③まとめる

・水害からくらしを守る取組を関連図にしてまとめた。
・学習問題の解決し、新たな問いへつなげた。

自分は水害に対してどのような備えができるだろうか。



○ICT 活用など学習活動の工夫
・Benesse「ミライシード」内ムーブノートやオクリンクの活用、思考ツールの活用によって、共有化を図ったり、思考を深めたりした。

高学年分科会

6学年　社会科　単元名「国の政治のしくみと選挙」

①問いをもつ

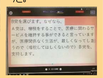
・「国会では何を話し合っているか」「税金は何に使われているか」など素朴な疑問から個人の問いをもたせ、それを使って学習問題を設定した。

政治はどのような仕組みで進められているのだろうか。

○単元のデザイン
・見方・考え方を働かせ、国の政治について、追究段階で調べる、話し合う、自分の考えをもつことができる問いを設定した。

②追究する

・租税教室での税理士による体験的な活動を行った。



・Benesse「ミライシード」内ムーブノートに学習内容をまとめ共有した。

○金銭・金融教育
・租税教室から、自分の暮らしと関連付けながら社会で起こっている問題に関心をもち、討論を伴う学習を加えることで多角的に考えられるようにした。

○ICT の活用
・公共性について考えを深めるため、ICT を活用して「考えの見える化・共有化」を図った。

④いかす

政治に参加するためにどのようなちかを身に付けるべきか。

・さらなる問いについて、根拠をもって考えた。
・自分にできることを考えた。

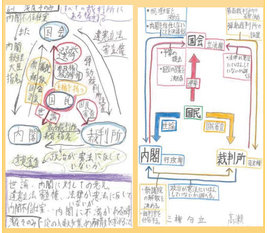
夏休みの自由研究作品

税の絵はがきコンクール入賞

○さらに考えさせたい問いを引き出す学習
・将来、政治に参加する心構えを考えた。
（夏休みの自由研究などに生かされた。）

③まとめる

・学習問題についてまとめ自分の考えをもつ。
・学習問題の解決と新たな問いへつなげる。



○学習活動の工夫
・国会と内閣、裁判所の三権分立図にまとめることで、追究した内容を整理し、学習を深めることを図った。